

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八幡南高等学校

自己評価

学校運営計画(4月)		評価(総合)				
学校運営方針	「鍛え、ほめ、可能性を伸ばす」ことで、全人的な人間教育と生徒一人一人の自己実現をめざす。【志高くチャレンジ！ 希望を貫け！】					
昨年度の成果と課題	<table border="1"> <tr> <th>年度重点目標</th> <th>具体的目標</th> </tr> <tr> <td>生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の成果は現れているが、更なる高みを目指して地域の生徒・保護者から信頼される学校づくりが必要であるとする。 今年度も引き続き、生徒が高い志を持ち失敗を恐れずチャレンジし希望を貫くことができるよう、教職員各々の力を結集して教育活動を組織的に推進する。 また、コロナ禍で実施できなかった取組を整理して実施し、地域に開かれた学校づくりを目指す。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を効果的に活用した学習活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 「授業で勝負」の理念のもと確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力が付いたと実感できるよう授業改善を進める。 学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。 個に応じた指導を行うことで、生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人一人の自己実現を目指す。 地域社会や同窓会等と連携したキャリア教育を推進し、志高くチャレンジし、目標の実現に向けて最後まで諦めずに努力する生徒を育成する。 成年年齢引き下げに対応した教育の充実を図る。 全ての教育活動を通して他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。 人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。 生徒主体の学校行事の成功に向けて努力する、リーダーシップのある生徒を育成する。 特別活動や部活動等を充実させ、たくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図る。 </td> </tr> </table>	年度重点目標	具体的目標	生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の成果は現れているが、更なる高みを目指して地域の生徒・保護者から信頼される学校づくりが必要であるとする。 今年度も引き続き、生徒が高い志を持ち失敗を恐れずチャレンジし希望を貫くことができるよう、教職員各々の力を結集して教育活動を組織的に推進する。 また、コロナ禍で実施できなかった取組を整理して実施し、地域に開かれた学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を効果的に活用した学習活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 「授業で勝負」の理念のもと確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力が付いたと実感できるよう授業改善を進める。 学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。 個に応じた指導を行うことで、生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人一人の自己実現を目指す。 地域社会や同窓会等と連携したキャリア教育を推進し、志高くチャレンジし、目標の実現に向けて最後まで諦めずに努力する生徒を育成する。 成年年齢引き下げに対応した教育の充実を図る。 全ての教育活動を通して他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。 人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。 生徒主体の学校行事の成功に向けて努力する、リーダーシップのある生徒を育成する。 特別活動や部活動等を充実させ、たくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図る。 	
年度重点目標	具体的目標					
生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の成果は現れているが、更なる高みを目指して地域の生徒・保護者から信頼される学校づくりが必要であるとする。 今年度も引き続き、生徒が高い志を持ち失敗を恐れずチャレンジし希望を貫くことができるよう、教職員各々の力を結集して教育活動を組織的に推進する。 また、コロナ禍で実施できなかった取組を整理して実施し、地域に開かれた学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を効果的に活用した学習活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 「授業で勝負」の理念のもと確かな学力の定着を目指し、生徒が授業で力が付いたと実感できるよう授業改善を進める。 学習指導要領の趣旨を踏まえ、観点別学習状況の評価のさらなる充実を図る。 個に応じた指導を行うことで、生徒の進路意識の高揚を図り、生徒一人一人の自己実現を目指す。 地域社会や同窓会等と連携したキャリア教育を推進し、志高くチャレンジし、目標の実現に向けて最後まで諦めずに努力する生徒を育成する。 成年年齢引き下げに対応した教育の充実を図る。 全ての教育活動を通して他者を思いやり、共に生きる心や公共の精神に基づく実践力を備えた人材を育成する。 人権尊重の精神を涵養し、いじめ、暴力、差別等は絶対に許さない人間教育を行う。 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、教育活動全体において特別支援教育を推進する。 生徒主体の学校行事の成功に向けて努力する、リーダーシップのある生徒を育成する。 特別活動や部活動等を充実させ、たくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図る。 					

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は
	<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや適切である</p> <p>D : 不適切である</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	授業力の向上を図り、主体的に学ぶ意識の向上を図る。	ICT課と連携し、機器を効果的に活用した授業の推進を図る。		
		授業アンケートのさらなる改善を行うとともに、「授業で力がついた」の項目が学校で3.5以上(4段階評価)をめざす。		
		「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。		
教務課	教務部の組織化を進め、効率的な業務運営を行う。	業務分担を明確にし、組織的な業務の整理を行う。		
		統合型支援システムの運用方法を整理し、職員が活用しやすいようなシステムの構築を行う。		
		共有フォルダ及び校内メールを適切に活用し、円滑な業務運営を行うとともに、職員配布物についてもプリント配布の合理化を進める。		
教務課	カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の質の向上を図る。	研修部との連携を強化し、会議及びメール機能を通じて意識の統一を図る。		
		教科主任と連携をとり、3年間を見通した授業の計画を構築する。		
		思考力・判断力・表現力を育むための授業の在り方や評価等について共通理解を図り、全職員で組織的に取り組めるよう指導方法の検討を行う。		
ICT推進課	情報機器の管理や業務のデジタル化を通して、先生方が仕事をしやすい環境を整える。	会議室やICT機器の利用について、学校ポータルでの予約システムの構築を行う。		
		学期に1回は情報機器の運用状況や所在を把握し、円滑に利用できる環境を整える。		
		formsでのデータ集約やgoogleアプリによる共同編集など、ICT活用の幅を広げる。		
		校務支援システムやteams等の既存のシステムの簡略化・マニュアル化を進める。		
庶務課	学校行事が円滑に実施できるよう、早期に綿密な計画を立てる。	式典・行事の流れが把握しやすいよう時系列的に実施要項を作成する。		
		式典・行事ごとに複数の担当者を割り当てて、チームでその企画・運営にあたる。		
		各行事の実施要項や会議資料等早めに準備し余裕をもって提示する。		
	PTA活動・互助会活動の円滑な運営を行う。	PTA活動の引継ぎ等を確実にし、活動を促進する。		
PTA各種委員会との連携を深め、委員会活動の活性化を図る。				
	奨学金希望者への正確かつ分かりやすい情報の提供を図る。	奨学金の募集時期や種類を分かりやすく提示し、修学及び進学を経済面から支援する。		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒育成課	【生きる力】八幡南高校生としての基本的な生活習慣の確立を図る。	定例の会議や職員研修等で、生徒指導規定の周知徹底を図り、職員全体が共通認識をもって指導する。 授業を中心に、挨拶と時間厳守を奨励することで授業規律を確立し、教育活動全般で社会で望まれる立ち振る舞いができるよう指導する。 学校行事、部活動、ボランティア活動等を通して、リーダーシップ教育を充実させ、リーダーを中心とした学校の活性化を図る。					
	【心の安全】安心できる人間関係を構築するために、自他を尊重する雰囲気醸成を図る。	学校行事やホームルーム活動等を通して、生徒一人一人の個性やよさを発見し、自己肯定感を高める働きかけを行う。 学校生活アンケートやいじめアンケートを通して生徒理解を深め、生徒が感じる困難さに対しては関係職員と連携し早期に対応する。 いじめ防止マニュアルを周知徹底し、いじめを許さない雰囲気を作り、お互いの個性や多様性を認め合う風土を作り上げる。					
	【身体の安全】安全に学校生活を送るために、校内外での安全教育を推進する。	危機管理マニュアルの周知徹底を行い、校内外の事故の未然防止や事故後の対応等を職員間で連携して行えるようにする。 年1回の交通安全教室に加え、新入生に対しては学校周辺の通学路の危険な場所について指導し、2・3年生に対しては講話等で安全指導を行う。 校内安全点検を定期的に行い、危険な箇所について報告・改善することで、事故を未然に防ぐ。					
保健課	生徒の自主的な健康管理を促す。	保健委員会による、健康に対する意識を持たせるための取組(感染予防、熱中症、健康診断等に関する保健だよりやポスター制作、放送での呼び掛け等)を充実させる。 健康診断の意義や取り組みについて十分に説明し、健康に関する意識を高めさせ、スムーズに検診が行えるようにする。 基本的な生活習慣を確立させるとともに、日常的にケガや感染症を防止するための行動を進んで行うことができるようにする。					
	個々の生徒への理解・支援を図る。	支援を要する生徒については職員研修のみではなく、随時、職員の共通理解を図ることができるよう、きめ細かな連絡を行う。 スクールカウンセラー、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、担任、学年との連携を密にするための時間設定を行う。 心の健康のためのカウンセラー便り等を作り、カウンセリングを受ける生徒だけでなく、全生徒に対する情報発信を行う。					
	清掃活動に積極的に取り組み、校内環境美化への意識向上を目指す。	整美委員をリーダーとして、掃除時間の開始後すぐに清掃に取り掛かり、時間一杯清掃活動に取り組むようにさせる。 整美委員による担当掃除区域のチェックを定期的実施し、生徒の美化意識を向上させることで生活環境を清潔に保てるようにする。 日常の清掃活動のマニュアルを作り、清掃道具の補充等、清掃しやすい状態を整え、広範囲な掃除区域でも、毎日の清掃で校内を美しく保てるようにする。					
人権・同和教育推進課	生徒の人権に関する知的理解と人権感覚の向上に努める。	教育活動全体を通じて全職員で人権・同和教育を推進し、人権尊重の精神を涵養し、実践的な行動力を育成する。 生徒の実態や時代に即した学習内容・教材を精選し、事前学習やふりかえりの時間の確保に努め、特設授業の充実を図る。 7月、12月に人権教育・啓発週間の取組を実施する。また、生徒会と連携して啓発活動を行う。					
	生徒一人一人の自己実現のために、確かな学力と進路を保障する。	学習面や生活面で様々な課題がある生徒の状況や生活背景を把握することで、生徒理解を深め、他の分掌と連携しながら必要な支援へと繋げる。 進路部や修学支援担当、関係諸機関と連携して、就労・進学保障のきめ細かな取組を行う。不適正な事例が起きた時は迅速に対応する。 人権教育や修学支援に関する情報の発信や校外研修会の案内を適宜行い、全職員が情報や資料を共有・活用できるようにする。					
	支援や配慮を必要とする個々の生徒への支援体制を整える。	中高交流会や入学式時の相談コーナー、生徒情報交換会など、様々な機会を通して生徒の状況把握に努め、必要な支援・配慮についての共通認識を図る。 特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、関係諸機関と連携しながらケース会議を開くなどして適切な支援に繋げる。 家庭や地域、校種間、関係機関と連携・協同しながら個々の生徒に応じた適切な支援や配慮を行っていく。					
キャリア教育課	生徒の学習意欲向上と授業改善につながるよう模擬試験を活用する。	模試ごとに分析会を行い、生徒の学習状況を把握して授業計画等の改善に生かせるようにする。 模試後の振り返りややり直しを確実に行うことで、基礎学力の定着を図り、進路実現につなげる。					
	個々の生徒の進路希望に応じた指導を実施し、多岐にわたる進路に対応する。	探究課と協力して面接・小論文・討論・口頭試問等のゼミ活動を早期に行い、入試対応力を付ける。 公務員採用試験や就職試験を目指す生徒に対して早期に計画的な指導を実施し、100%合格を目指す。					

ガイダンス課	3年間を見通した課外授業の実施や校外活動への参加を促すことにより、生徒の希望進路実現を目指す。	課外授業の内容充実のために、学年や教科と連携して生徒の実態を把握し、生徒の実態に応じた課外授業を実施する。						
	社会とのかかわりの大切さや、働くことの意義を適切に理解できるように一人一人のキャリア発達を支援する。	進路講演会を学期ごとに実施し、学問と職業の関わりを知り、学問・職業選択の幅を広げられるようにする。						
		2年次までにオープンキャンパスに2回は参加し、複数の進路先を比較し、視野を広げるよう促すとともに、事前事後指導を丁寧に行う。						
探究課	3年間を見通した系統的な指導を行い、明確な進路目標のもとに主体的に行動する生徒を育成する。	1年次は、職業・学問研究、2年次は進路先研究、3年次は進路目標に向けて自走できる生徒を育成するための総合的な探究の時間を計画する。						
	進路実現のために必要な思考力・判断力・表現力を有する生徒を育成する。	大学や企業との連携によって探究学習を進め、生徒の興味や関心を広げられるように工夫する。						
		3年間を見通した系統的な計画として「小論文・面接・討論・口頭試問ゼミ」を実施し、「書く力」と「話す力」の育成を行い、生徒の表現力を高める。						
研修・図書課	基本研修・職員研修の充実を図る。	若年教員研修や基本研修等で得た学びやその成果を発表する機会を設定する。						
		教員が必要性を感じる共通の課題に応えるため、各分掌と連携しながら本校の実態や実情に応じた校内研修を実施する。						
	生徒が授業で力がついたと実感できるよう、授業改善に努め、教科指導力の向上を図る。	授業アンケート結果のフィードバックによる授業改善を目指し、「生徒が授業で力がついたと実感できる」等の質問回答率の向上を目指す(3.5以上)。						
		授業研究会や相互授業参観を実施し、教科を越えた授業手法の共有を図り、教科指導力を向上させる。						
		「新たな学びプロジェクト」の一環として、一人一台端末などのICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。						
	読書活動の推進と、図書館利用の促進を図る。	朝活やビブリオバトルを実施して、生徒の読書に向かう意欲を高める。						
広報課	本校の取組について、積極的な広報活動を行うことで、八幡南高校の魅力を校外に発信する。	教務部ICT推進課と連携し、ホームページを通して、学校行事等日々の様子や部活動の大会報告等を積極的に発信する。						
		中学生体験入学を行い、中学生や保護者に本校のことを正しく伝えることを通して、選ばれる学校になるよう努める。						
		中学校訪問の計画立案や準備、中学校説明会の連絡調整等、教務部と連携しながら円滑に行う。						
1学年	八幡南高校生としての自覚と誇りを持った生徒を育成する。	時間やルールを守り、挨拶やマナーなど他者への配慮を大切にする指導を行う。						
		部活動や生徒会活動への参加を促し、部活動加入率80%を目指す。						
		クラス役員や実行委員などの役割を通して学校の一員としての自覚を持たせるよう指導する。学年代表、クラス代表を中心に、主体的に行動する学年集団を育成する。						
	正しい学習方法と学習習慣を身に付ける。	授業を中心とした学習体制を整え、予習・授業・復習・課題提出の学習サイクルを確立するよう指導する。						
		定期考査ごとに学習計画表を活用し、2週間前から計画的に学習に取り組み、教科ごとに振り返りを行わせる。						
		スタディサプリを活用させ、自らに合った内容の学習を、主体的に行う習慣を定着させる。						
自身の適性を知り、進路目標を設定し、目標に向けてスタートを切る。	自分自身の適性や能力を知り、高い志を掲げ、適切な文理選択、進路目標の設定を行えるよう指導する。							
	個人面談や大学研究等を通して進路意識の高揚を図る。							
	ボランティア活動への参加や各種検定試験への受験を奨励し、自らの能力を主体的に高めていく生徒を育成する。							

2学年	中核学年として、基本的な生活習慣を確立することで後輩に範を示し、責任ある行動をとれるようにする。また、学校行事、学校生活でリーダーシップ、フォロワーシップを発揮し、自信をもって学校活性化に資する行動ができるようにする。	HRや面談等を通して、きめ細かい指導を行う。また即時指導を原則として迅速に指導に当たる。					
		学年が抱える課題解決のためにリーダー集会を1月ごとに行う。また学校行事の運営を生徒が自分たちで行ったと実感できるよう、きめ細かい指導を教員団で行っていく。行事の振り返りの中では、リーダーの気持ちについて必ず触れ、フォロワーシップについて評価するとともに、理想の在り方を伝えていく。					
		クラス役員の仕事を修学旅行とリンクさせ、役割を果たすよう指導を行う。また、クラスの係活動の内容を充実させ、クラス内での自己の役割を果たすことで自己有用観を高めていく。					
	学習習慣の定着及び既習内容の定着を図り、進研模試3教科で40%以上得点できる生徒80名、学年全体の平均偏差値52を目標とする。	担当による生徒面談を通して、学習習慣が身に付いているか、継続できているかのチェックを定期的に行い、学び方の修正についての指導を行う。					
		スタディサプリで課題の内容を精選し、提出の仕方を工夫することで、既習内容の定着を図る。また、Formsで小テストを行うなど一人一台端末の環境整備状況を最大限活用する。					
		特進クラスの教科担当者会議を考査ごとに行い、その振り返りを共有し、授業改善を図る。					
進路目標を明確にするために、体験的な活動に積極的に参加させ、タイミングの良い進路行事を実施することで、進路意識が継続的に高まる指導を行う。	国内研修、勉強合宿、修学旅行を通して、勤労観・職業観の育成を図り、社会における自らの役割を発見するきっかけ作りを行う。						
	進路別集会を学期に2回実施することで、今何をしなければならないのかについて意識させるとともに、高い目標を持ちつづけることができるよう指導を行う。						
	SDGs探究活動を通して、自らの社会と関わり、課題を解決しようとする主体性を育む。						
3学年	生徒の第一希望進路100%の実現を目指す。	高い進路希望を持たせ、国公立大学55名以上、公務員7名以上の合格を目指す。総合型選抜入試、学校推薦型入試に向け、小論文及び面接指導体制の充実を図る。					
		面談や総合的な探究の時間等を活用し入試制度について早期に理解させるとともに、生徒一人一人の受験プランを明確にし、入試に対応できる力を養う。					
	授業を大切に、生徒が最後まで学び続け、力がついたらと実感できる授業づくりを行う。	学習の習熟度に応じた課外や個別指導を適宜行い、学力の伸長に努める。					
		それぞれの進路に応じて計画的かつ主体的に学ぶことができるよう課題や小テストを調整する。					
		進路決定後も自分自身を高めるために学び続けることの重要性を理解させ、クラス全体で最後まで学習に取り組む雰囲気作りを行う。					
	最上級生としての自覚を持ち、主体的に考え行動できる生徒を育成する。	生徒が主体となり、学校行事の成功に向けて努力することを通して、生徒一人一人がリーダー学年であることを自覚させる。					
学校行事を通してたくましい人間力やコミュニケーション力の育成を図り、生徒に自信を持たせる。							
	最上級生として、周囲の状況に応じた言動を行うことができるよう指導する。						
事務部	本校の学校運営方針に沿った教育環境の整備を図る。	生徒への教育効果を高めるため教員と情報を共有し、校内の教育環境及び教育設備の充実を努める。					
	効率的かつ適正な業務運営を行う。	予算の効率的な執行を図るとともに、必要な予算要求を行う。					
		職員間の相互チェックを徹底し、適正な会計事務処理の執行に努める。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・

評価項目以外のものに関する意見

--